

はたらき人

沖縄信徒聖書学校
沖縄聖書神学校

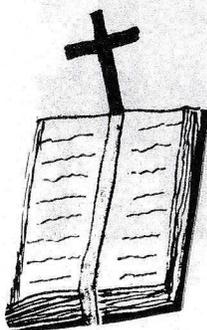
沖縄県那覇市久米町
2の11 (〒900)
事務局
聖書学校
☎ 09893(7)8988
神学校
☎ 0988(84)4391

どんなキリスト者に入学してほしかを述べてみたいと思います。この学校が始まった動機は、一九七四年に沖縄の教会指導者が韓国を訪れた時、秀れた教会役員、婦人執事、霊に燃え主に仕えている多くのキリスト者に出会い、日本でみたことのない働き人の層の厚さを見たことにあります。民族総福音化を熱心に祈り、そのため断食して祈っている祈禱院の大勇士を見た時、二千年前の初代教会の観がありました。なぜこんなに違うのだろうかという疑問は、旅行を続けているうちに、発見出来ました。数多くの異民族の支配と侵入の迫害を受けた彼らの願いは、祖国の独立であり道徳武装と民族の誇り高い意識でありました。三二抗日運動のリーダーは、多くの牧師と長老、執事であり、日本の軍国主義によって、創氏改名

沖縄信徒聖書学校は君の入学を待っている

沖縄信徒聖書学校 理事長
折田 政博

と韓国語の禁止を強いられた時、雄しく立ち向かったのが、教会でした。国民学校において、日本語による教育がなされても、教会において、ハングル語を教え、民族としての誇りを捨てなかったのです。さて、沖縄の教会指導者の見聞した、歴史的事実と信仰の証詞は、「沖縄と沖縄の教会をさへる信徒づくり」を、訓練する超教派の信徒聖書学校建設に進ませたのでした。私はその願いが百歩達成しているとは思っていません。理想的な献身する信徒の養成にむかって、努力が続けられていると理解しています。たゞ学びたい、教会で得られない信徒教育をこの学校でうけたいという、個人的願望が優先して、キリストの体である教会に仕えるために学び、教会をさへえて宣教



を前進させよ働き人になろうという大目的の影が薄くなる傾きをもっていることも事実であります。では、これからどうしたらよいのか？
一、祈って、祈って、祈って、入学してほしいです。神のみ心を求めて、全教員に祈られて、おし出されてほしいです。教会に祈られて、学びを全うしてほしいです。二、聖書を読んでから、入学してほしいです。教会学校の教師の経験者に入学してほしいです。奉仕したい人、伝道したい人、献身したい人に来てほしいです。三、愛を求めて、聖霊の賜物を求めて、入学してほしいです。四、キリスト者の教会を超えた真の交わりを求めて入学してほしいです。五、沖縄十万人救済のために、役立ちたい。家族、友人、親族を主に導きたい人に来てほしいです。「私の苦難の日に私に答え、私の歩いた道に、いつも私と共におられた神に祭壇を築こう。」創35の3



87年度入学生

あかし

仲地 尚子

母は若い時受洗していたが、ずっと結婚後も教会を離れていた。しかし、わが家のために父方親族の祈りがあった。そして名護伝道所発祥地家庭集會がわが家で始められて、まず母がリバイブされ続いて兄と私が救われた。このように次々に親族に救いが広がった。しかし、受洗からこの六ヶ年、順調にクリスチャン生活を歩めたのではなかった。東京での大学浪人

生活を通して「主にすがる道以外ない」と確信して信仰告白をした私でしたが、大学進学とともに解放感からはなやかな環境に身を投じ教会を離れてしまった。世的解放に浸るものば底抜けで大変なものだった。あげくのはて肉身と縁切り状態までなり、苦しみ悩んだが、背後に親族の強い祈りがあった。主は道を開き、キリストの十字架こそ真の解放であることを知らしめ、再決心へと導いてくださった。そして献身の思いも与えられてきた。

二年半前、米國留学をした時、フルタイムで福音活動をしている若い多くのクリスチャンに会った。日本にもそのような働きが必要だと感じた。また信徒の聖書知識の深さに感嘆し、私に欠けている面を見い出した。

献身の思いがあっても、訓練の足りない者である。常に聖書を学ぶ姿勢をもち備えたい。
(名護バプテスト教会員)

島袋 聖子

「見よ、私は戸の外にたたく。開けるなら、私は彼のところに入

って彼とともに食事をし、彼も私とともに食事をする。」(黙示三の二〇)、この聖句によって、私は洗礼を受けました。考えてみると幼い頃から神を知っていたけれど戸の外に立ってたいたいている神に気づくことが出来ませんでした。何年も神を外に立たせたままに生活面や家族にも恵まれ、悩みもなく過していた私は、受洗はしたけれど、それ以上の信仰の成長はなく、時がたつにつれて信仰が重荷になり、何でも自分に頼ってしまう生活が過ぎました。またその時、勉強のため親もとを離れ神を知らない人達と生活し、ふれ合い、みんながみんな幸せでないことがわかりました。苦しんでいる姿を見ていると、すごく悲しくなりました。声をかけてあげても思うように言えず、自分の信仰が成長していないことにくやしさを感じました。

そのような中から思ったことは決して神から離れてはいけないということ、この神の愛を、私のまわりの人達にわけてあげたい、みんなが神の愛を知ってほしいということでした。
(沖縄天久神の教会員)

◆◆ 神学校たより ◆◆

二人の貴重な神学生は沢山の教授達にしがかれていますが、やっと夏休みに入り、解放されてひと休止です。でも休んでばかりはおれません。神学生は、与えられた夏期伝道日定を消化しなければなりません。沖縄縦断夏期伝道です。八月九日〜八月十三日まで二人はワゴン車にのり、映画「喜びの家族」をひっきりと、伝道と証し、トラクト配りをしながら恩納村を皮切りに辺土名まで行きます。藤村、末吉、両神学生の働きの上に祝福を祈ります。

△△ 沖縄聖書神学校主催

第一回「創造論と進化論」
講師 運天康正先生
キリスト恩寵教会牧師

日時 元禄年八月二十七日
午後三時より 二十八日午
前一時まで (一泊二日)

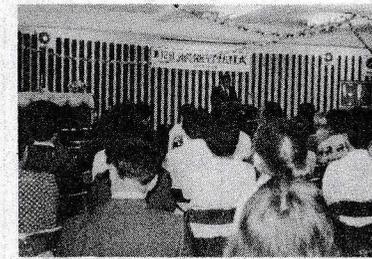
会場 名護浦荘
連絡先 首里教会 (古聖)

科学と宗教はキリスト教の永遠のテーマですが最近の新聞はアメリカで公教育で創造論の教育を禁止するとの判決を下しました。我々はどう考えるべきか。牧師、教師にとってもよい学びになります。

十三名卒業 主のために活躍を期待する

去る三月二日午後三時より沖繩福音会館において、沖繩信徒聖書学校の第十二回卒業式が挙行されました。安里嗣昌校長より神と教会に仕え奉仕に励むようにと激励があり、十三名に次々と卒業証書が授与されました。また激励にかけつけてくださったタイ宣教師森本憲夫先生より祝辞もちょうだいしました。

- 《卒業生》
- 新城信子(沖繩天久神の教会)
- 上地恵子(牧港中央バプテスト)
- 喜屋武勇(インマヌエル東風平)
- 金城千代(那覇バプテスト)
- 小波津芳子(宜野湾ナザレン)
- 島袋裕子(沖繩天久神の教会)
- ジョンソン朝子(那覇バプテスト)
- 仲宗根みどり(胡屋バプテスト)
- 仲間洋子(那覇ナザレン)
- 長田克之(宜野湾ナザレン)
- 比嘉祥一(那覇バプテスト)
- 福地春美(那覇ホーリネス)
- 銘所揚子(那覇バプテスト)



卒業式

した。

長田克之

神の恵みと守りのうちに、二ヶ年の学びの時は過ぎました。私はクリスチャンとして、CS教師として聖書の系統的な学びをしたいという気持ちが入学するだいが以前からありました。沖繩のクリスチャンにとって、特に恵まれているのは、超教派の信徒のための聖書学校があるということです。その学校に学んで思うことは

多くあるのですが、そのひとつは私達クリスチャンは今までの歴史の中で幾多の先輩方が守り続けてきた正しい信仰を受け取り、伝えなければならぬということです。そのためには、霊的にも知的にも聖書を理解しなければなりません。教理、教会史、旧新約の概論と研究、伝道学、キリスト教宗と倫理、説教、弁証学、比較宗教学を九名の先生に教えて頂きましたが、アウトラインや導入を終わらせたに過ぎないことをよく言われました。楽しく有意義な授業は本当に価値のあるものだったと思います。

「高ぶりが来れば、恥もまた来る。へりくだる者には知恵がある」(しん言一一章二節)

自戒の意を込めて。感謝。

(宜野湾ナザレン教会員)

金城千代

長いようで短かった二年間、あれよあれよという間に終えました。これは、ひとえに主の恵みと諸先生方のひとかたえに感謝いたします。ご苦労に心から感謝いたします。最初の頃は、若い方々とはちがって緊張の余りにかたくなって先生方の講義を聞いていたので、難かしく思い、つかれていました。



卒業生

しかし、先生方の私達一人一人にご配慮の心と親切な教えによって一学年の終り頃から学ぶ意欲がでてきました。私にとって、聖書概論、歴史、説教、弁証学、伝道学等々、いづれも新しく又興味をそそる学びでした。

二年間の三学期は多くのレポートがあたえられ、一つ一つ書き上げる度に自分の「学を問う」の弱さがしみじみと感じさせられました。でも私達は多くの信徒よりえらばれ導かれたこの恵みを深く感謝せずにはおられません。此の二ヶ年を終えることよって私達の学びは芽ばえた所のもものと思ひ、今後何年続くか分りませ

んが、(もっと困難になるかも知りませんが)主の導きを祈りつゝ、学びつづけたと思います。(那覇バプテスト教会員)

比嘉祥一

一日もかかずに聖書を読み続けていきましたが、ただ読むだけでは何となく物足りなくなっていた時に聖書学校のことを知り受験しました。

当初は聖書積義的な事だけを学んだらうとばかり思っていました。が、実際に入学してみると、教会史、教理、倫理、教育、弁証学、伝道学、説教、比較宗教学として新約、旧約それぞれの概論と研究等いろんな角度から多くのことを学ぶことができて恵みに充たされた毎日でした。中でもイエス様が世界の歴史の中心に立つておられるということ、また西洋文明におけるキリスト教の果たした役割についての教会史からの学び等は特に印象に残っています。

昼間の疲れを覚えながらの学びにも拘らず居眠りをさせない先生方の、時にはユーモアを交えての楽しい教えの連続で、あつという間に二年が過ぎてしまった感じ

す。

もっと多く学びたいの思いを残しての卒業ですが、素晴らしい機会を備えて下さった神様に、また終始限りない愛をもって導いて下さった先生方、そして皆様のお祈りに心から感謝申しあげます。(那覇バプテスト教会員)

上地恵子

神さまから特別に選ばれて信徒聖書学校の学びが導かれていたことを、毎回の授業を通して深く思わされ、ただ感謝のうちに二年間が過ぎていきました。

諸先生方が信徒聖書学校を深く愛され、また、私を十分整え奉仕の業に間に合うように力強く教えて下さるその姿勢に感動しながら主の備えておられる多くの恵みについて預かることは、もったいないという気持ちで一杯でした。教会生活の中では知ることでできない超教派の諸先生方や、主に在る友との交わりは、自身の信仰生活の高慢さに気付かされ、主の体なる教会に具体的に仕えるための素晴らしい学びの時でした。諸先生方を通してわかりやすく聖書に親しみ、御言葉に生かされている喜びと、多くの方々の熱い祈りを感

福地春美

週二回、二年間の信徒聖書学校での学びを心から感謝します。学びの時を振り返ってみると、私の信仰生活にとって大切な時であったことを思われます。旧約概論新約概論・教会史・キリスト教

よりよく仕えるために

一七名入学する

去った四月三日午後七時三〇分より沖繩福音会館において八七年度の入学式が挙行され、一七名の兄弟が入学を許可されました。

- 《新入生》
- 新垣 勇(那覇バプテスト)
- 小波美加子(那覇バプテスト)
- 岸本真紀子(那覇バプテスト)
- 金城順正(那覇バプテスト)
- 崎濱苗子(那覇ナザレン)
- 下地直子(那覇バプテスト)
- 島袋聖子(沖繩天久神の教会)
- 砂川勝彦(那覇バプテスト)
- 玉城ミツ子(首里バプテスト)
- 渡慶次ケイ子(那覇バプテスト)
- 仲地尚子(名護バプテスト)
- 長嶺玲子(那覇バプテスト)
- 橋口真紀子(胡屋バプテスト)
- 外間広枝(那覇バプテスト)
- 村田和久(牧港中央バプテスト)
- 松山みき(城間ナザレン)
- 儀間美佐子(教団那覇中央)